

AET2
Asian and Middle Eastern Studies Tripos, Part II

Friday 29 May 2015 9 to 12.00 pm

Paper J14

Classical Japanese Texts

Answer **all** questions.

Write your number **not** your name on the cover sheet of **each** answer booklet.

STATIONERY REQUIREMENTS

20 page answer booklet

Rough Work Pad

SPECIAL REQUIREMENTS TO BE SUPPLIED FOR THIS EXAMINATION

Shinjigen dictionary

Kojien dictionary

You may not start to read the questions printed on the subsequent pages of this question paper until instructed to do so.

SECTION A

(1) Translate the following passage from an **unseen** text into English. [50 marks]

十二 自慢するは下手芸といふ事

今はむかし、物ごと自慢くさきは未練のゆへなり。物の上手のうへからは、すこしも自慢はせぬ事也。我より手うへのもとも、ひろき天下にいかほどもあるなり。諸芸はかりにかぎらず、侍道にも武辺・口上以下、さらに自慢はならぬものを、今の世は、貴賤上下それ／＼に自慢して、声だかに荒言はきちらし、わがま、をするものおほし。

その癖に、をのれが疵をかくさんとて、よきものを誹わらふ事あり。あるもの、座敷をたて、絵をか、する。白鷺の一色を望む。絵かき、心得たり、とて焼筆(三十一ウ)をあつる。亭主のいはく、いづれもよささうなれども、此白鷺のとびあかりたる、羽づかひがかやうでは、とばれまいといふ。絵かきのいはく、いや／＼此とびやうが第一の出來物ぢやといふうちに、本の白鷺が四、五羽うちつれてと

ぶ。亭主これを見て、あれ見給へ。あのやうにかきたいものぢやといへば、ゑかき、これを見て、いや／＼あの羽づかひではあつてこそ、それがしがかいたやうには、得とふまいといふた。(三十二オ)

一 宗旨を尋ぬる事

今はむかし、浮世房、いざなはれてゆきてみれば、大なる屋かたのうちにいりぬ。折ふし主君御うちにおはします。が、かう／＼のよしを申上ければ、さらばとて、御めみえせさす。主君の仰せに、お房主は何宗ぞとたつねらるゝに、浮世房こたへて申すやう、それがしは、上戸衆にて候といふ。めつらしき宗旨かな。いづれの経より出たるをしへぞとの給ふ。酔狂経に出たりと申す。それはいつれの仏の説法ぞとの給へは、酒如来のとき給へりと申す。つとめの行には何をい(二オ)たすととひ給へば、只朝夕は錫をつまぐり、どふろくじの名号をとなへ奉るとこたへしかば、主君大にをかしがり給ひ、ちかごろおもしろき御房かな。いつまでもこれにおはして、物語をもしてきかせ給へとありしかば、かしこまり侍へるとて、しばらくと、まりぬ。

(二ウ)

Ukiyo monogatari (Asai
Ryōi zenshū 1), pp. 376-77.

SECTION B

(2) Translate the following passage from a **seen** text into English. [25 marks]

なぞく、いろはほへと。なあに
そばなる人
それは、にひとり。
さてくよくも、とき待るものかな。
此にひとり付て。ふしぎなる、はなしの作。申べし。
京油の小路七条ふ動堂のあたりに。にひとりの、あきな
ひを、若き時より、するもの有。
たまごの商売をし。又ハ、鶏を、おほく飼。ころして、
うり、様々あつかひける。
此もの、年よりけれハ、口なども、とがり。なにとやら
ん。つ「三ツ」らのなりも、そのまゝの、にひとり也。
あかつき、時をつくり。早天におきて、庭にゐ。座敷へ
あがる事も、なし。今生にて、其まゝの、には鳥也。
眼前に、畜生道ハ、ある事なれ共、人、おどろくこと
なし。
後生には、其まゝ、ちくしやうに生るれ共。あまり業ふ
かくして、たゞ今はや、にはとりと、なる也。
せめて後生をだにも、ねがふ人ハ、かくハあるまじ。

Jigabachi monogatari (KSS 33), pp. 300-1.

(TURN OVER)

(3) Translate the following passage from a **seen** text into English. [25 marks]

一或人、やめる時。知る人の薬を用けれど、快気なし。³⁰
去ほとに、人々。あの医もよし。此医も功なると。さまざま
替けれとも。おもき病なれハ。一二服つゝ。のめ
るとて験気の、あらんや。同くハ。その医の学と功とを、
兼たらん人の薬は。平愈をそくとも。思定て、用へきか
死病に向ひてハ、扁鵲も、すくひかたし。されとも、大
医をかけて。残念を、はらさハや。
唐の名医達ハ、諸病の根元を。あきらかに弁へて。脉
を通達あり、今の世に、脉を伺ひて、生死をしらん人。
ありもや「ニテ」すらん、覚束なし。
文の中は、さとりやすく。指の下は、明らめかたし、と
也。
或ハ、扁鵲の方、かならず、と思ハし。義に叶ひて、病
いやすもの。よろし、と、いへり。
内熱さまさんと、冷薬用ハ、本治なれと、焼石に、水
を、そくがことし。時に、熱薬一味くハへて、熱さむ

るとかや
須ハ。病の。まだしき時。病性正しく伺ふ。薬をこ
そ、あらまほし。
我煩し薬の問着のミならず。神靈に訴へたり。或
ハ、おこかましき妙薬など用て。いと、心のおもくれ
り。されとも、死病の時節、至らざるや。快気は得しか
とも。思へは、後悔。しかし、病に品と。やぶにこう
有、一概にハ、いはし

Kuyamigusa (KSS 24), pp. 120.

END OF PAPER

Page 4 of 4